

登別の自然



倶多楽湖



大湯沼

大湯沼

地獄谷の北東、爆裂火口跡に湯をたたえた周囲約1^{キロ}のひょうたん型の沼。最深部は約25^{メートル}あり、地底からわき出た130度の熱湯によって温められ、表面温度は40～50度で灰黒色をしている。昔はこの沼で硫黄を採取していた。沼を見下ろす展望台がある。

大正地獄

大正時代に起こった小爆発で生じた湯の沼。89度の鉄分を多く含んだ湯が毎分100^{リットル}も激しく噴き出している。10日間程度の周期で湯の量が増減を繰り返す間欠泉で、湯量が減ったときには、地の底から無気味な地鳴りが聞こえる。湯の色が白、青、黒、ピンク、グレーなど7色に変わることで知られている。



登別原始林



大正地獄

倶多楽湖

登別温泉の東、手つかずの原生林に囲まれたカルデラ湖。周囲約8.5^{キロ}、最大水深は147^{メートル}もあり、ほぼ円形をしている。湖に出入りしている川がなく、透明度は28.3^{メートル}と、平成13年度に摩周湖に次いで全国第2位。水質は平成9・10年度に日本一に輝くなど、日本屈指の美しい湖として知られている。

登別原始林

大正13年、登別温泉付近の区域が国の天然記念物に指定された。現在、その面積は約186^{ヘクタール}で、約170種の樹木・草木が保存されている。遊歩道が整備されていて、ミズナラやセンノキなどの巨木を見ることができる。

登別三大テーマパーク



登別マリンパークニクス

北欧のロマンチックな街並みを再現したテーマパーク。内部が水族館になっている『海洋美術館ニクス城』には、頭上をサメやエイなど、さまざまな魚群が回遊する寒流・暖流の2つのアクアトンネルがあり、海底散歩を体感できる。イルカやペンギン、アシカのショーなどのイベントも大人気だ。



登別伊達時代村

江戸時代の街並みを時代考証に基づいて忠実に再現。94棟の木造建築物が建ち並び、スタッフ全員が江戸時代の着物姿。まるで、江戸時代へタイムトラベルしたような体験が味わえる。忍者怪々迷路や妖怪びっくり小屋、お大尽遊びを再現した日本伝統文化劇場などがある。



のぼりべつクマ牧場とユーカラの里

登別温泉街からロープウエーで約7分、標高550^{メートル}の山頂で、約160頭のヒグマを飼育している。自転車のりや玉のりなど、愛きょうあるクマのショーが楽しめるほか、世界でも珍しいヒグマ博物館やアイヌの人びとの生活を再現したユーカラの里などがある。

